

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4699200012
法人名	株式会社 グループホーム天望台
事業所名	グループホーム 天望台
所在地	鹿児島県大島郡天城町瀬滝677番地1 (電話) 0997-85-4722
自己評価作成日	平成24年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム天望台は、道路に面して交通の便が良く、施設の周辺には生活館や駐在所、郵便局、スーパーなどの社会資源に恵まれ、自然豊かな過ごし易い環境です。園内は明るく広々として、玄関先のホールにソファを設置して、入所者様や職員、来客などの語らいの場所となっています。また、月2回講師を招いてのレクリエーションや地域の行事やユイユイサロンなどに参加したりしています。運営推進会議の一環では、協力員の方・家族の方・職員で島めぐりを行ったりしています。思い出療法として、玄関の入り口や外に大きなつぼや石臼等、昔使っていたと思われる物を置き、見て、触れて懐かしんだり、何かを思い出すきっかけの一つとして取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・玄関ホールは広々として、古民具や季節の草花が飾られ、ホールや廊下に配置されたソファやベンチでは、入居者の集まりと語らいの場所となっている。
- ・廊下は幅が広く、外からの採光もあり、ゆったりとした気持ちで過ごすことができる。
- ・ホームは、開放的で家庭的な雰囲気があり、地域に溶け込んでいる。
- ・職員間のコミュニケーションが取れており、明るく楽しい職場環境である。
- ・家族や関係機関・地域の区長等へ、月1回「天望台だより」を発行し、ホームの活動を積極的に発信している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者は毎月一回の職員会議で理念にそったケアが出来ているか話し合い、理念に意識づけと共有を図っている。リビングに理念を掲示し、毎日朝礼時に職員で理念の唱和を行っている。	毎朝、理念の唱和で意識付けを行い、利用者のこれまでの生き方を尊重し、理念にそった対応に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年一回の防災・消火訓練に協力員の方達も参加してもらい、利用者たちとの交流やクリーン作戦・町主催のユイユイサロンに参加している。また、日頃から挨拶を心がけている。	地域の生活館で行なわれる行事にホーム全員で出席したり、小学校の運動会や持久走大会などの応援をしたり、ホーム便りを毎月作成して配布するなど、地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームの誕生祭や敬老会などの参加を兼ねて地域の方達とカラオケや踊りで舞台に立つてもらえる機会を作り楽しんでいる。他に近くの小学校の子供達や婦人会の皆さんが利用者との交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し、役場や地域の方の意見を聞いている。11月には、利用者・そのご家族と運営推進会議の役員さん達と交流会遠足で島めぐりを行いました。地域の方達ともお互いに色々な意見を話しながら協力をいただいている。	会議では、ホームの状況を報告したり、役場や地域関係者からは色々な意見が出ている。会議の中で出た意見から、利用者や家族・運営推進会議メンバーでドライブに出かけ、交流を図るなどの意見がサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>何かわからない事がある時は、すぐに役場に相談している。</p> <p>ケアマネは、役場の地域包括支援センターの運営推進会議等に役員として出席し、協力関係を築くようにしている。</p>	<p>管理者が介護保険事業計画の委員をしており、毎月の更新手続きや介護計画提出の際に利用者の相談や運営に関する意見交換を行なうなど、市との連携が図れている。</p> <p>地域包括支援センターにも出向き相談している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>普段から一人一人に声かけ、信頼関係を作っているので話せばわかる。相手が嫌がる事はしない。</p> <p>身体拘束はしないようにしている。</p>	<p>外出願望の利用者については、一緒に散歩したり、距離を置いての見守りをするなどの対応をしている。また、言葉による拘束がないように、職員間で注意し対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について注意をはらっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>資料を用いた研修を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容について、具体的に説明している。 退所についても、家族ときちんと話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアマネ兼管理者を苦情相談窓口とし、何かあった時はすぐに運営者に相談し、内容によっては職員全体で話し合い、対処している。また、口では言いづらい事もあると考へ「ご意見箱」を設置している。	面会時には、必ず家族と面談し、意見や要望を聞いている。家族等が意見を出し易いようにゆっくり時間をかけている。要望や意見があった場合は職員間で協議し、即座に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月給料日を職員会議と勉強会の日と定め、気付いた事や色々な案を出し合ったり、勉強をしている。	職員の各リーダーは、毎月の職員会議で意見や提案を出している。夜勤形態などの運営や転倒防止などのケアの改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働く喜びを感じられるように常に考へ、職員自身の健康が利用者に深く関係することを話し合い、給料を安定させて、不安のない家庭生活が出来、楽しい職場作りを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人間形成が非常に大切であり、生涯学習を基本として人づくりを考えている。研修があれば必ず誰かが行くように、町内町外はなるべく全員で参加する努力を重ねている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ケアマネは、他のグループホームのケアマネと連絡を取り合い勉強会をしたり、ケアマネ協議会の会合に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所予定になった際は、必ず連絡を入れ面接をするようにしている。出来る事なら、見学に来て頂きゆっくりと話をするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込用紙を取りに見えた時点で、ゆっくり話を聞くように努めている。遠方からの場合も電話で話を聞き、ファックスや郵送で申し込み書を送ったりして少しでも安心して申込が出来る様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護認定を受けていない場合は、市町村に相談して、まずは介護認定を受ける事を勧めたり、早急に入所が必要そうな場合は他のグループホームや老人ホームにも申込をすることを勧めたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	雑巾を縫ってもらったり、洗濯物干しや洗濯物をたたんでもらったりしている。自分達が食べた食器は下膳をしてもらったり、職員よりも上手な事はまかせたり、教えてもらいながらしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者が精神的に落ち着きがなくなったり、体調を崩したりした時には必ず家族にも連絡をとり、一緒に問題解決に向けて悩んだり、ホッとしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけるのを手伝ったり、出かけたついでに馴染みの場所へ行ったり、近所の方と会えば話をする機会をもうけている。	家族との関わりが途切れないように細かに対応している。例えば自宅訪問希望の利用者には、自宅近辺まで一緒に行き、安心して落ち着けるようにしたり、職員が外出する際は必ず利用者を一緒に誘い、利用者の馴染みの場所に立ち寄るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	玄関前のソファ椅子に座って県道を歩いている方達を見ながら話はずみ、お互いの昔話に夢中になって、このホームは場所がいいと満足していると思う。様子を見ながら、食堂の座る位置を替えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、家族の方が遊びに来てくれたり、外で家族の方と会ったら必ず声をかけて近況をお話したりしている。また、退所した方のお葬式には花を届け、運営者とケアマネが参列している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続ける為のケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所したことで今までの生活を急に変えないように、出来るだけ今までの生活の続きが出来る様になっている。(例：本読み・写真鑑賞・散歩・花植)	利用者からの意見や意思表示を汲み取るように心がけている。また、困難な場合は家族から情報を聞いたり、本人の表情や行動から読み取ったり、スキンシップの反応で把握に努めている。面会時に家族から以前の生活を聞き取り、本人の意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけでなく、家族や入所前に利用していた事業所のケアマネと連絡をとったり、馴染みの方と話をしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族等とも話をしている。また、スタッフ間でも気付いた事は情報を共有し合えるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフと話したり、往診や受診の時も基本的にケアマネが付き添い、医師や看護師とも体調のことだけでなく精神的な面を話すようにしてコミュニケーションをとっている。	入居時に本人や家族と話し合い、面会等で来所した時にも意向を確認して計画を作成している。スタッフ間でも日頃のケアについて話し合い、プランに反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日各勤務ごとに記入し、情報を共有、活用出来る様に努めている。個々の情報が分かりやすいように、必要に応じてその人に合った個別の記録用紙を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には家族が支援される一方になってしまわないようにと考え、受診等は家族に任せる様にしているが、その時の状況に応じて柔軟に対応している。また家族が遠方の場合、自宅の様子を見に行ったり、お墓参りに同行したり、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	9月の敬老の日には、近くの生活館での敬老会に参加したり、運営推進会議の一環として消防に依頼し、協力員・役場職員・ホームの職員でAEDの研修を行いました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけではなく、入所前からのかかりつけ医に診てもらえるようにしている。かかりつけ医に対して不安がある時は、家族と話す機会を設け、安心してもらえるようにしている。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。専門医受診も、家族の協力を得て、受診支援をしている。協力医療機関からの定期的な往診があり、普段の健康状態の報告や体調変化時等の相談を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時に訪問看護師と話したり、必要な時は往診時以外も電話で相談したりしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や、病院の事務や看護師だけではなく、医師やソーシャルワーカーとも連絡をとって対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族や医師と相談し、その結果特老に申込をさせていただいている。もしくは、事業所での対応が無理な場合は、医療機関への協力をお願いしている。</p>	<p>入居時に重度化や終末期の対応について家族に説明し、同意を得ている。事業所としては最後まで関わりたいとの思いがあり、医療機関や家族と密に相談しながら、最善のケアに努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>平成23年10月30日に、三町合同防災訓練（津波訓練）があり、実際に起こった想定で近くの生活館まで利用者全員・職員で避難訓練を実施しました。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力員10名の方や、隣の駐在所にもお願いしている。タバコを吸う職員には特に注意をして火の恐ろしさを話し合っている。次年度からは、毎月一回ミニ防災訓練を計画している。</p>	<p>平成23年10月に3町合同の避難訓練に、職員および利用者全員が参加している。また、救急時のAED訓練も消防署や地域住民の協力のもとに実施している。防災頭巾の作成を検討するなど、防災意識が高い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応もさり気なくするように努力しており、気付いた時は職員同士でも注意し合うように心がけている。	相手の尊厳を傷つけない対応に心がけている。また、職員間で気になる言動やケアについては注意喚起ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは本人の意向を聞く様にし、理解が出来ない時は、何度も説明したりして利用者からの決定を持つようにし、なるべく納得しながら生活出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の利用者の状態に応じて職員が買い物や散歩等、出来るだけその人に合わせて出掛け、淋しい思いをさせないように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	副施設長が美容師なのでボランティアで散髪をしたり、ブラッシングなどを毎日行っている。なるべく、自分でコーディネートした洋服を着てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を変えてみたり、盛り付けを工夫している。食事準備の際は、一緒に野菜の皮むきをしてもらったり、配膳などを手伝ってもらっています。	一人ひとりに合った食事量や形態を工夫し、能力に応じて食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。また、食材の買い物やドライブで外食に出かけるなど、食事が楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶・牛乳・ヤクルトなどを利用者がほしい時は、お茶時間以外にも摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人、声かけ・見守りで食後に歯を磨ける方は各自行い、介助が必要な方は職員が見守り等を介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべく、職員が声かけトイレ誘導し、なるべくリハビリパンツなどを使用しない様に記録用紙をもっている。	夜勤体制の時もこまめに排泄誘導を行い、リハビリパンツの使用を減らしている。記録や申し送り等で失禁回数が多い場合は、原因を探り職員全員で排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	月2回講師を招き朝10時から11時まで、レクリエーションをして生活に変化をもたらしている。体操や、牛乳・ヨーグルト・食事等、おもに野菜摂取を心がけている。便秘の解消に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	夏場は、週に三回。冬場は週に2回だが、大きな湯船にお湯を張り、ゆっくりと浸かってもらっている。スタッフの都合が良い時は、決めた曜日以外にも入浴してもらう時もある。	浴槽の大きいものと家庭用の浴槽が設置され、個浴ができるようになっている。入浴日は決まっているが、利用者の要望や状態に応じて、個別に入浴が楽しめるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後も明かりがあった方が良いという人に対しては、つけたままにしたり、冷暖房も本人の好みを優先して調整し、快適に過ごせるようにしている。シーツも汚れてないかチェックし、清潔に出来る様心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬の内容を一目見て分かる様にファイルに綴っている。疑問に思った時はスタッフ同士で声を掛け合い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「いつも〇〇さんが洗濯物をたたんでくれて助かります」とか、一緒に家事をしてきて「いつもありがとうございます」と言ったりして、本人の意欲と張り合いにつなげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一緒に散歩や、買い物に出掛けたり、庭で草花を見たりしている。晴れた日に、職員がそろっている時は、利用者を連れて花見や、公園などに出掛けている。	天気の良い日は近隣の散歩が習慣化し、地域住民との交流も図れている。週2～3回の買い物の外出や、職員が遠出の用事の際にも必ず利用者を一緒に誘い、日常的な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向で、施設でお金を管理し、利用者が必要な時は本人の希望する物を一緒に行って購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から、手紙が来たり電話がかかってきたりする。本人が依頼する時は、家族や友人に電話をかけたりしている。時々自分の住所・名前を書いてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に家族からの贈り物の花や、季節の花を飾ったり、写真を貼ったりしている。また、リビングのテレビの前にはコタツを置き、食後は自然とコタツに集まり団欒している。	ホールには、季節の花が飾ってあり、ソファが置かれ、ゆったりと語らいの場となっている。写真や古物が陳列され、馴染みやすく居心地よい共用空間である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関前や廊下・居室前にソファを置き、数名でおしゃべりが出来る場所がある。玄関前のソファは毎日集合場所になっている。お手玉・ボール遊び・輪投げを楽しんでいる。お風呂も利用者同士一緒に入って絆を深めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋には押入れとベッドが備えられ、部屋の外には濡れ縁がついている。使い慣れたベッドを持ち込む方もおり、それぞれがタンス・ドレッサーを持ち込んでいる。亡くなった主人の写真や孫からの贈り物を飾ったり、自分たちで色塗りしたものを飾ったり居心地良い部屋で工夫がされている。</p>	<p>居室には備え付けのクローゼットがあるため、広々としてゆったりしている。それぞれが好きな家具や置物・写真・花などを飾り、居心地よく安心して過せるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下は全体的に手すりを設置し、なるべく自力で歩行が維持できるようにしている。風呂場の浴室や浴槽に手すりを設置し、トイレ内も手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない